

らない。

A-45) 頸部脊髄症に対する脊柱管拡大術 (片開き法) の成績  
En-bloc laminoplasty for compressive myelopathy

橋本 正明・南出 尚人 (公立能登総合病院)  
泉 祥子 (脳神経外科)

頸部脊椎管狭窄症に対してその簡便性, 安全性より我々は片開き式椎弓形成術を採用しており, 長期経過による成績を検討し報告する。

対象及び方法: 頸部脊椎管狭窄症に基づく頸髄症33例 (年齢: 35~81歳, OPLL 5例を含む) に対し片開き式椎弓形成術 (伊藤法) を施行した。形成術の範囲は MR, myelo-CT を参考に決定し, おおむね C3-6, 7 の範囲に及ぶ4~5椎間であった。術式の要点は 1) Myelopathy もしくは radiculopathy の強い側を open side とし骨溝を作成した。2) C2 の椎弓及び C7, もしくは TH1 の椎弓は Dural sac の後方移動や黄靭帯切離を容易とするために Semilaminectomy とした。3) 椎弓の固定は刺突起を形成しこれらを2カ所で椎弓と椎体を固定した。4) 前方成分の強い5例において計14椎間に foraminotomy を追加した。平均手術時間は3.5時間であった。術後3日間の安静臥床後, 起座位とし7~10日で立位歩行とした。結果: 術前術後の JOA score は  $6.8 \pm 3.80$  より  $13.81 \pm 3.6$  と回復が見られた。70才未満の非高齢者 (20例) と高齢者 (13例) ではその回復率に差はみられなかった。術後回復率の低い症例は DM 合併, 長期経過例などにみられた。結語: 頸部脊椎管狭窄症に対する片開き式椎弓形成術は, 1) 広範な脊髄除圧 2) 頸椎柱の支持性と可動性の維持 3) 手術の安全性, 簡易性などの利点を持ち foraminotomy も追加しえ 4) 高齢者にも対応しうる極めて有効な手術術式と思われた。

A-46) 頸椎症性脊髄変化との鑑別が困難であった髄内腫瘍初期病変の2症例

八巻 稔明・稲村 茂  
石崎 努・大滝 雅文  
伊林 至洋・上出 延治 (札幌医科大学)  
田邊 純嘉・端 和夫 (医学部脳神経外科)

頸髄内腫瘍の多くは発見された時点で脊髄のびまん性腫大を呈していることが多く, 発生の初期段階を画像的に捕えることは稀と思われる。我々は椎間板突出によ

る脊髄圧迫部位に MRI 上脊髄の異常信号を認め, 頸椎症性脊髄変化と思われた病変が, その後の経過観察で髄内腫瘍であることが判明した稀な2症例を経験したので報告する。症例1は65歳, 男性。13年前から右前腕のしびれがあり, 2年前から指先の痛みが出現した。受診時, 両側第3~5指領域に知覚低下を認めた。MRI 検査で C5/6 レベルの椎間板突出と脊髄圧迫, 脊髄内の異常信号, Gd による増強効果を認めた。頸椎症性脊髄病変としては非典型的と思われたが, 同部の前方固定を行い, 経過を MRI で追跡した。病変部は徐々に増大し, 5年後腫瘍摘出術を行った。病理診断は上衣腫であった。症例2は66歳, 女性。両下肢から上行する知覚異常があり, 整形外科で C5/6 間の椎間板ヘルニア, 同部位に一致する脊髄病変および脊柱管狭窄を認め, 前方固定および椎弓形成を行った。症状は進行性に増悪し, 9ヶ月後の MRI で頸椎症による脊髄変化と思われた部位の増大を認め髄内腫瘍と診断された。腫瘍摘出を試みたが正常脊髄との区別がつかず, 病理組織を採取できなかった。

A-47) 特発性脊髄ヘルニアの1例

松島 忠夫・渡辺 一夫 (南東北病院)  
脳神経外科

特発性脊髄ヘルニアと考えられる (非手術例) 症例を報告した。

[症例] 60歳女性 [主訴] 右胸下より右下肢のしびれ, 走れない, つまづきやすい [経過] 昭和58年頃より上記症状が出現, 持続した。平成3年初診。[所見] 右 Th9 以下の痛覚, 触覚低下, 左 Th12 以下の触覚低下, PSR 亢進, ASR 減弱, 両下肢筋力低下4/5, 病的反射なし。

MRI, CTM findings: an enlarged dorsal arachnoid space in association with an apparently focally narrowed thoracic cord, kinked towards the anterior dura at the Th4, 5 level.

[経過] 外来 follow した。平成8年6月では, 知覚障害は同様, 筋力低下の悪化はなし。初診時尿が漏れることがあったが, その後はなくなった。MRI, CTM の所見も変化なかった。